

平成31年1月1日発行
企画・編集 松崎 靖
発行 (株)足利屋洋品店
みどり市大間々町4-1380 (〒376-0101)
TEL 0277-73-1212
Fax 0277-70-1066

今月の題字
山口 実さん

(みどり市大間々町)
ショッピングセンターさくらもーるの新しいテナント
会長に就任した山口さんはブティック・アン
エディ、M2のオーナー。若さと行動力
で50の専門店の魅力を引き出します。



窪塚書道教室新春作品展

足利屋では今年も大間々町の窪
塚英華書道教室に通う子どもたち
の作品展を開催いたします。期間
は一月二日～一月二十九日まで。
今回展示する作品は、昨秋に
富山県民会館で開かれた第五十三
回日本北陸書道院展の条幅部で日
本北陸書道院賞や特選を受賞した
八人の力強い作品ばかりです。



「実りの秋」
を書いた倉本
歩葉さんは、
「大好きで太
い字が書けま
した」。「希
望の光」の内
海百々花さん
は「力いっぱ
いハッキリと
書けたのでよ
かったです」
両角知紗さん
は「一文字、
一文字太く

パツチリと書けていたので来年も
がんばります」。永井華稟さんは
「条幅は初めて書いたけど、先生
のおかげで力強く書くことができ
ました。とても楽しかったです」
小森夕楓さんは「去年書いたとき
より文字の線がきれいに書けてう
れしかったです」という感想。
「山頂の雲海」の渡辺はるさんは
「今年が中学一年生になり、字が
難しくなったので、なかなか自分
の書きたいと思う字が書けません
でした。だけど、続けていけば必
ず上手になれると信じて楽しく習
字をすることができました」。櫻
井花香さんは「字が難しく、最初
の方では思うように書けませんで
した。条幅は大きく書くので
体力と集中力を使うので大変で
したがあきらめず、最後の期間ま
で書けたので楽しくできました」
子どもたちの作品と感想を読ん
でいると、書道を通して窪塚先生
から大切なことを学び、年々成長
していることが伝わってきます。



小耳にはさんだ
いい話
(文責・菊)
《281》

『想いは空をこえて』

今から十一年前、ながめ余興
場で『星野富弘・詩の世界&渡
り鳥・雁のゴーマーの物語』と
いう語りと音楽のコラボイベン
トを開催しました。その時に
出演した新日本フィルハーモニー
交響楽団・フルート奏者の荒川
洋さんはこの町が大好きにな
り、何度も来てくれています。
みどり市では平成二十八年度
から「MIDORIジュニアア
カデミー事業」が始まり、国際
的にも活躍できる人材の育成を
目指し、市内中学校の吹奏楽部

の指導や音楽祭の監修を荒川
さんをお願いしています。
平成三十年春に行われた
「MIDORIジュニア音楽
祭」では、市内の幼稚園や保
育園、小中学校、高校など十
三団体五百人が参加し、荒川
さんとチェロ奏者の植木昭雄
さん、ピアノ奏者の佐藤勝重
さんによる「東京パリアンサ
ンブル」との合同演奏も行わ
れ、喝さいを浴びました。
荒川さんは、大間々の「な
がめ余興場」や渡良瀬川、富
弘美術館などをイメージした
『想いは空をこえて』という
曲を作詞作曲しました。

世界一小さな
定利屋

トイレ美術館

今月の写真《281》

高草木幸子さん『川の流れ』



お正月の楽しみの一つに年賀状があります。
毎年、ご自身が撮った写真年賀状を送って下さ
る方が何人もいます。大間々の高草木幸子さん
もそのお一人で、年賀状はいつも足利屋の休憩
コーナーに飾らせて頂いていました。「来年か
らは来なくなる」と思っていた年の瀬、幸子さ
んの娘さんから喪中がきと共に、天国からの
写真はがきも届きました。「行く川の流れは絶
えずして、しかも、もとの水にあらず」とい
う一節を思い出しました。人生は「一期一会」、
その時その時の出会いを大切にしたいですね。

『想いは空をこえて』

私のふるさととは
花が咲き誇り
素敵な眺めと賑わう人たち
川をめぐりゆき
あの人の絵に会う
花への思いが私を包む
冬の寒さも
心は温かく
あなたがくれた
歌声を忘れない
想いは空をこえて
輝く太陽と
神様宿る森へと歩き続けよ
想いは空をこえて
心が歌いだす
ありがとう育ててくれた
みどりのふるさと

この歌を聴

いてみると、
みどり市の美
しい自然や穏
やかな人々の
暮らしや豊かな歴史や文化
までもが浮かんできます。
平成三十一年二月三日に
は笠懸野文化ホールパルで
「MIDORIジュニア音
楽祭」を開催します。今回
も荒川さんのほか、劇団四
季の「オペラ座の怪人」の
怪人役の大山大輔さん、ピ
アノの佐藤勝重さんが出演
し音楽祭を盛り上げます。
ネット上で『想いは空をこ
えて・荒川洋』と検索して
歌を聴いてみて下さい。

靖ちゃん日記

十二月十七日(月)
市内八校の小学六年生四八九人
全員をながめ余興場に集めて落語
会を開いた。「百年後まで語り継
がれる創生落語制作委員会」が
つくれた落語も、三遊亭楽麻呂、三遊
亭萬橋、三遊亭玉楽の三人の若手
真打噺家が面白おかしく語った。
東所出身の「童謡の父」石原和三郎、大
間々町を老成させた近江商人、笠懸町の礎
を築いた岡上影能という郷土の偉人を落語
にして、伝統ある芝居小屋で聴くことは郷
土への誇りと愛着を育めることに役立つ。
朝八時から黒子の会やガイドの会の仲間
十五人が教育委員会の職員と一緒に準備を
し、ハッピーで子どもたちを迎え、終了後
は花道や回り舞台に立つ体験もさせた。
笑うことは健康で楽しい人生に繋がる。
下ネタも失敗談も笑って許される世の中で
あってほしい。「禪の研究家」の鈴木大拙
氏が「禪の研究家」と間違われたことがあ
るといふ。禪も禪も、大事なもの
優しく包み込んでくれる。

『平成』に拍手を打ち初参り

大間々町の鎮守として
慶長四年(一五九九)に
中興遷座した神明宮は町
の歴史と共に歩み、今年
は四百二十年目を迎えます。
「平成」は「慶長」から数え
てちょうど四十番目の元号です。
神明宮は、街よりも低い位置に
あり、富岡市の貫前神社と同様に
「下り宮」であり、街を下から支
える「下支えの宮」として大間々
の歴史と文化を支えてきました。
毎年一月一日の午前零時から、
神明宮の役員として、初詣客に甘
酒を振る舞う係を続けています。
「一年の計は元旦にあり」。新し
い年もよろしくお願ひ致します。

虹の架橋 ↑ 検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

第二八二号は二月一日(金)発行予定です。

♡ やつちゃんの似顔絵提供…ひさかさん